

中期目標の達成状況報告書 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	14頁 29行 (計画 2-2 1行)	教育学研究科や農学部等、	教育学研究科や農学部等 <u>において</u> 、
2	15頁 27行 (計画 3-2 1行)	教育学研究科や農学部等、	教育学研究科や農学部等 <u>において</u> 、
3	17頁 38行 (計画 5-5 2行)	122 大学	52 大学等
4	18頁 29行 (計画 6-2 1行)	教育学研究科や農学部等、	教育学研究科や農学部等 <u>において</u> 、
5	23頁 21～22行 (計画 2-2 1～2行)	(約 (27, 780+19 年度分) 点)	(40, 480 点)
6	32頁 8行 (計画 2-3 2行)	約 3 千万円	約 30 百万円
7	40頁 13～14行 (計画 1-6 3～4行)	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ	「魅力ある大学院教育イニシアティブ」 ↓
8	45頁 17行 (計画 5-3 6行)	・・・技術移転件数は <u>108</u> 件を超えている。	・・・技術移転件数は <u>100</u> 件を超えている。
9	46頁 19～20行 (計画 6-4 3～4行)	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ	「魅力ある大学院教育イニシアティブ」 ↓
10	50頁 20行 (計画 8-3 6行)	請負契約、工事及び	請負契約（工事除く）、

	頁数・行数等	誤	正
11	60 頁 (計画 4-3 資料)	大学院生 3 6 0 7 名 博士取得後研究員 1 5 7 8 名 若手研究者 1 0 3 4 名	大学院生 3 2 6 0 7 名 博士取得後研究員 1 2 5 7 8 名 若手研究者 1 2 0 3 4 名
12	62 頁 4 行	「京都大学国際教育プログラム KUINEP」	「京都大学国際教育プログラム (KUINEP)」
13	62 頁 7 行	若手事務員を海外に派遣	若手事務職員を海外に派遣

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育1-3 31行 (観点 教育内容 6行)	サンスクリット語	サンスクリット語学
2	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育1-3 38行 (観点 教育内容 13行)	自己評価委員会	自己点検・評価委員会
3	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育1-3 41行 (観点 教育内容 16行)	資料1のとおりであ <u>。</u>	資料1のとおりである <u>。</u>
4	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育1-4 資料1	②この授業はわかりやすかった。	③この授業はわかりやすかった。
5	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育1-4 資料1		「①～⑥」及び「⑦～⑫」の書き出しを揃える

	頁数・行数等	誤	正
6	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 (2)分析項目の水準及びその判断理由 教育1-5 5行	また実質的 <u>には</u>	また実質的 <u>にも</u>
7	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅳ 学業の成果 教育1-9 資料6 (「審査教員」欄)	<u>木田</u> <u>大谷</u> <u>大槻</u> <u>金光</u>	<u>木田 章義</u> <u>大谷 雅夫</u> <u>大槻 信</u> <u>金光 桂子</u>
8	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅳ 学業の成果 教育1-9 資料6 (「審査教員」欄)	<u>平田</u> <u>川合</u> <u>木津</u>	<u>平田 昌司</u> <u>川合 康三</u> <u>木津 祐子</u>
9	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅳ 学業の成果 教育1-9 資料6 (「審査教員」欄)	<u>池田</u> <u>宇佐美</u> <u>武田時昌</u>	<u>池田 秀三</u> <u>宇佐美 文理</u> <u>武田 時昌</u>
10	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅳ 学業の成果 教育1-9 資料6 (「審査教員」欄)	<u>徳永</u> <u>赤松</u> <u>横地</u> <u>藤井正人</u>	<u>徳永 宗雄</u> <u>赤松 明彦</u> <u>横地 優子</u> <u>藤井 正人</u>

	<p>頁数・行数等</p>	<p>誤</p>	<p>正</p>
<p>11</p>	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅳ 学業の成果 教育1-9 資料6 (「審査教員」欄)</p>	<p><u>御牧</u> <u>宮崎</u></p>	<p><u>御牧 克己</u> <u>宮崎 泉</u></p>
<p>12</p>	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅳ 学業の成果 (2)分析項目の水準及びその判断理由 教育1-9 20行 (下から3行)</p>	<p>自己点検・評価<u>文学部</u>委員会</p>	<p>自己点検・評価委員会</p>
<p>13</p>	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅴ 進路・就職の状況 (2)分析項目の水準及びその判断理由 教育1-11 6行</p>	<p>不満を<u>聴く</u>ことは</p>	<p>不満を<u>聞く</u>ことは</p>

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育2-3 23行 (観点 基本的組織 19行)	大学設置基準 <u>第十三</u> 条	大学院設置基準 <u>第九</u> 条
2	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育2-3 38行 (観点 教育内容 8行)	サンスクリット <u>語</u>	サンスクリット <u>語学</u>
3	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育2-3 43行 (観点 教育内容 13行)	少人数教育上実施しにくい状況にある。	<u>同時に</u> 少人数教育上実施しにくい状況にもある。
4	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅱ 教育内容 教育2-5 3行 (観点 学生や社会 2行)	授 <u>行</u> 科目	授 <u>業</u> 科目
5	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅱ 教育内容 教育2-5 7行 (観点 学生や社会 6行)	人間文化研究科学との間に	人間文化研究科との間に

	頁数・行数等	誤	正
6	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目II 教育内容 教育2-5 8行 (観点 学生や社会 7行)	相互履修ある	相互履修 <u>がある</u>
7	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目IV 学業の成果 教育2-9 資料8 (「論文題目」欄)	李登輝政権下の兩岸関係と台湾人アイデンティティの変容 (11 ポイント)	李登輝政権下の兩岸関係と台湾人アイデンティティの変容 他の論文題目とポイントを合わせる (ポイントを下げる：9ポイントに)
8	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目IV 学業の成果 (2)分析項目の水準及びその判断理由 教育2-11 1行	自己点検・評価 <u>文学部</u> 委員会	自己点検・評価委員会
9	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目V 進路・就職の状況 教育2-12 3行	<u>教員</u> に就く者の数は	<u>教職</u> に就く者の数が
10	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目V 進路・就職の状況 教育2-12 7行 (観点 関係者 3行)	企業や <u>公</u> 官庁	企業や <u>官</u> 公庁

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 教育の実施体制 教育 10-6 9行	根拠資料 <u>1 7</u>	根拠資料 <u>2</u>

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 医学部の教育 目的と特徴 教育 11-2 29 行 （〔想定する関係 者とその期待〕の 3 行）	<u>室</u> の高い	<u>質</u> の高い
2	I 医学部の教育 目的と特徴 教育 11-2 31 行 （〔想定する関係 者とその期待〕の 5 行）	<u>MD/PhD</u> コース	<u>M. D. -Ph. D</u> コース
3	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 教育 の実施体制 教育 11-3 14 行	<u>社会医学系専攻</u>	<u>社会健康医学系専攻</u>
4	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 教育 の実施体制 教育 11-4 10～ 11 行	ファカルティ・ディベロップメント (FD) を <u>開催</u> して	ファカルティ・ディベロップメント (FD) を <u>推進</u> して
5	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 教育 の実施体制 (2) 分析項目の水 準及びその判断理 由 教育 11-4 28 行 (判断理由 4 行)	<u>ワークショップ</u>	<u>ワークショッ</u> プ

	頁数・行数等	誤	正
6	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅱ 教育内容 教育 11-7 9行	社会的ニーズの <u>応</u> えられる	社会的ニーズに <u>応</u> えられる
7	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅱ 教育内容 教育 11-7 21行 (「観点 学生や社会からの要請への対応」の下から4行)	実習として <u>科</u> している。	実習として <u>課</u> している。
8	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅲ 教育方法 教育 11-8 10行	生 <u>科</u> 学入門	生 <u>化</u> 学入門
9	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅲ 教育方法 (2) 分析項目の水準及びその判断理由 教育 11-9 12行	6年一貫 <u>性</u>	6年一貫 <u>制</u>

	頁数・行数等	誤	正
10	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅲ 教育方法</p> <p>(2) 分析項目の水準及びその判断理由</p> <p>教育 11-9 19行 (判断理由の下から8行)</p>	<p><u>ベット</u><u>サイト</u><u>ティー</u><u>ティング</u></p>	<p><u>ベッド</u><u>サイド</u><u>ティー</u><u>チング</u></p>
11	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅳ 学業の成果</p> <p>教育 11-9 31行 (「観点 学生が身に付けた学力や資質・能力」の2行)</p>	<p><u>Computer-based Learning</u></p>	<p><u>Computer-Based Testing</u></p>
12	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅳ 学業の成果</p> <p>(2) 分析項目の水準及びその判断理由</p> <p>教育 11-10 29行 (下から2行)</p>	<p>人間健康科学学科</p>	<p>人間健康科学科</p>
13	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅳ 学業の成果</p> <p>(2) 分析項目の水準及びその判断理由</p> <p>教育 11-10 30行 (最終行)</p>	<p>判断<u>して</u>いる。</p>	<p>判断<u>され</u>ている。</p>

	頁数・行数等	誤	正
14	Ⅲ 質の向上度の 判断 ①事例1 教育 11-12 4行	Computer_Based <u>Test</u>	Computer_Based <u>Testing</u>

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 医学研究科の 教育目的と特徴 教育 12-2 12行 （「2 特徴」の4 行）	医学専攻が設置し、	医学専攻が設置され、
2	I 医学研究科の 教育目的と特徴 教育 12-2 24行 （「2 特徴」の下 から4行）	展開しています。	展開している。
3	I 医学研究科の 教育目的と特徴 教育 12-2 27行 （「2 特徴」の最 終行）	次のとおりある。	次のとおりである。
4	I 医学研究科の 教育目的と特徴 〔想定する関係者 とその期待〕 教育 12-4 9行 （下から5行）	学問大系	学問体系
5	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 教育 の実施体制 教育 12-5 7行	4年一貫性	4年一貫制
6	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 教育 の実施体制 教育 12-5 9行	（2年）人間健康科学系専攻	（2年） <u>の</u> 人間健康科学系専攻

	頁数・行数等	誤	正
7	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 教育の実施体制 教育 12-6 「根拠資料 2. 医学研究科専攻別教員数」	合計 教授 <u>92</u> 名、准教授 <u>75</u> 名、計 <u>476</u> 名	合計 教授 <u>93</u> 名、准教授 <u>73</u> 名、計 <u>475</u> 名
8	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 教育の実施体制 教育 12-6 7行	4年一貫性	4年一貫制
9	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 教育の実施体制 (2) 分析項目の水準及びその判断理由 教育 12-6 32行 (下から4行)	教育者の <u>養成</u> する	教育者を <u>養成</u> する
10	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 III 教育方法 教育 12-9 「大学院教育コースの目的 (表 2)」 1) の1行	4年一貫性	4年一貫制
11	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 III 教育方法 教育 12-10 5行	<u>所属する</u> 所属する研究分野の	所属する研究分野の

	<p>頁数・行数等</p>	<p>誤</p>	<p>正</p>
<p>12</p>	<p>Ⅲ 質の向上度の 判断 ①事例1 教育 12-13 3行</p>	<p>4年一貫性</p>	<p>4年一貫制</p>

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 教育の実施体制 教育 14-3 9行	・・・・平成18年に3分野からなる統合薬学フロンティア教育センター、・・・・	・・・・平成18年度に3分野からなる統合薬学フロンティア教育センター、・・・・

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目V 進路・就職の状況 教育 15-10 25行 (下から4行)	図表12	図表13
2	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目V 進路・就職の状況 教育 15-11 図表 12	図表12	図表13
3	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目V 進路・就職の状況 教育 15-11 図表 12 2行	京士会	京士会

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 工学研究科の 教育目的と特徴 教育 16-2 18～ 19行 (2の4行)	グローバル・リーダーシップ	グローバルリーダーシップ
2	II 分析項目ごと の水準の判断 I 教育の実施体制 教育 16-3 7行	諸規定制定改廃	諸規程制定改廃
3	II 分析項目ごと の水準の判断 III 教育方法 教育 16-7 14行 (図表下の3行 目)	または合格 <u>または</u> 不合格	または合格、 <u>不合格</u>
4	II 分析項目ごと の水準の判断 III 教育方法 教育 16-8 8行	図書館 (2か所あります)	図書室 (2か所あります)

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目II 教育内容 教育17-4 28行 （「観点 教育課程の編成」の7行）	涵養する <u>ため</u> にもある	涵養する <u>ため</u> でもある
2	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目IV 学業の成果 教育17-13 17行 (2)分析項目の水準及びその判断理由（判断理由）の4行	様々 <u>な</u> 角度	様々 <u>な</u> 角度

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I エネルギー科学研究科の教育 目的と特徴 教育 21-2 30 行 (下から 13 行)	開発研究者、 <u>および</u>	開発研究者、 <u>および</u>
2	I エネルギー科学研究科の教育 目的と特徴 教育 21-2 31～ 32 行 (下から 10～11 行)	博士後期課程に受け入れ、 <u></u>	博士後期課程に受け入れ、 <u></u>
3	I エネルギー科学研究科の教育 目的と特徴 〔想定する関係者 とその期待〕 教育 21-2 40 行	実行のため、 <u></u>	実行のため、 <u></u>
4	I エネルギー科学研究科の教育 目的と特徴 〔想定する関係者 とその期待〕 教育 21-2 41 行	求めている、 <u></u>	求めている。 <u></u>
5	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 II 教育 内容 教育 21-4 22 行	・・・とともに、 <u></u>	・・・とともに、 <u></u>

	頁数・行数等	誤	正
6	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 II 教育内容 (2) 分析項目の水準及びその判断理由 教育 21-5 26行	期待に <u>答</u> える	期待に <u>応</u> える

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 教育の実施体制 教育22-3 32行	一貫	一環
2	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅱ 教育内容 教育22-4 23行	答え	応え
3	Ⅲ 質の向上度の判断 ② 事例2 教育22-8 13行 教育22-8 18行	エドケーション	エデュケーション

学部・研究科等の現況調査表（教育） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 地球環境学舎 の教育目的と特徴 教育 25-2 17行 (2の7行)	実践的に解決を <u>は</u> かるべき社会	実践的に解決を <u>図</u> るべき社会
2	I 地球環境学舎 の教育目的と特徴 〔想定する関係者 とその期待〕 教育 25-2 36行 (下から4行)	双方からの強い人材 <u>養</u> 成の要請に	双方からの強い人材 <u>育</u> 成の要請に
3	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 教育 の実施体制 (2)分析項目の水準及 びその判断理由 教育 25-4 7行	種々の調査結果は、学 <u>堂</u> 長、教務	種々の調査結果は、学 <u>舎</u> 長、教務
4	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 II 教育 内容 教育 25-4 18行 (「観点 教育課程 の編成」の5行)	「地球環境・ <u>法</u> 政策論」	「地球環境 <u>法</u> ・政策論」
5	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 II 教育 内容 教育 25-4 32行 (「観点 学生や社 会からの要請への 対応」の4行)	学生が、学 <u>堂</u> 長、 <u>副</u> 学 <u>堂</u> 長に直接	学生が、学 <u>舎</u> 長、 <u>教</u> 務 <u>委</u> 員長に直接

	頁数・行数等	誤	正
6	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目II 教育内容 教育 25-4 41行 (下から3行)	地域開発支援の <u>取り組み</u> を開始	地域開発支援の <u>取組</u> を開始
7	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目III 教育方法 教育 25-5 20行 (「観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫」の7行)	付与させることに <u>務</u> めている。	付与させることに <u>努</u> めている。
8	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目III 教育方法 教育 25-5 24行 下11行 (「観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫」の2段落 4行)	考え方の基礎を <u>考察</u> するため、	考え方の基礎を <u>学</u> ぶため、
9	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目III 教育方法 教育 25-5 28行 下7行 (「観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫」の3段落 1行)	シラバスは、毎年改定 <u>さ</u> れている	シラバスは、毎年改訂 <u>さ</u> れている

	頁数・行数等	誤	正
10	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅲ 教育方法</p> <p>(2) 分析項目の水準及びその判断理由</p> <p>教育 25-6 17行</p> <p>(判断理由の2行)</p>	<p>授業形態の組合せ・<u>バ</u>ランス</p>	<p>授業形態の組合せ<u>及び</u>バランス</p>
11	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅲ 教育方法</p> <p>(2) 分析項目の水準及びその判断理由</p> <p>教育 25-6 28行</p> <p>(下から3行)</p>	<p>「<u>嶋臺塾</u>」の定期的開催</p>	<p>「<u>ほんなり京都・嶋臺塾</u>」の定期的開催</p>
12	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅳ 学業の成果</p> <p>(2) 分析項目の水準及びその判断理由</p> <p>教育 25-7 19行</p> <p>(最終行)</p>	<p><u>2004年</u>から<u>2006年</u>までの3年間</p>	<p><u>平成16年度</u>から<u>18年度</u>までの3年間</p>
13	<p>Ⅲ 質の向上度の判断</p> <p>①事例1</p> <p>教育 25-10 6行</p>	<p>教育内容の充実を<u>は</u>かった。</p>	<p>教育内容の充実を<u>図</u>った。</p>

	頁数・行数等	誤	正
14	Ⅲ 質の向上度の判断 ②事例2 教育 25-10 18行 (②事例2の6行)	教育内容の深化を <u>は</u> かる仕組み	教育内容の深化を <u>図</u> る仕組み
15	Ⅲ 質の向上度の判断 ②事例2 教育 25-10 22行 (②事例2の下から4行)	地域開発の <u>取</u> 組みを開始した。	地域開発の <u>取</u> 組を開始した。
16	Ⅲ 質の向上度の判断 ④事例4 教育 25-10 39行 (④事例4の下から2行)	「修論作成による問題解決能力」が <u>つ</u> いた	「修論作成による問題解決能力」が <u>身</u> について
17	Ⅲ 質の向上度の判断 ⑤事例5 教育 25-10 42～43行 (⑤事例5の1～2行)	インターン研修を修士課程と <u>一</u> 部博士課程の必修	インターン研修を <u>環</u> 境マネジメント専攻修士課程と <u>同</u> 博士 <u>後</u> 期課程の必修

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 医学部・医学研究科の研究目的と特徴 研究6-2 2行	医学研究科 <u>医学</u> では	医学研究科では
2	I 医学部・医学研究科の研究目的と特徴 研究6-2 5行	向上を <u>謔</u> ろうとする	向上を <u>図</u> ろうとする
3	I 医学部・医学研究科の研究目的と特徴 〔想定する関係者とその期待〕 研究6-2 36行 (下から8行)	COEP <u>ロ</u> グラム	COE <u>プ</u> ログラム
4	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究6-3 「医学研究科・附属病院における物件費予算額の推移(表1)」	大学運営費（物件費）平成19年度 <u>0</u> 件、 合計 平成16年度 <u>9,072,305</u> 、平成17年度 <u>9,121,621</u> 、平成18年度 <u>9,903,615</u> 、 平成19年度 <u>9,591,364</u>	大学運営費（物件費）平成19年度 <u>__</u> 件、 合計 平成16年度 <u>9,073,693</u> 、平成17年度 <u>9,123,107</u> 、平成18年度 <u>9,905,097</u> 、 平成19年度 <u>9,592,512</u>

	頁数・行数等	誤	正
5	<p>Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断</p> <p>分析項目Ⅰ 研究活動の状況</p> <p>研究6-5</p> <p>「各専攻別研究の概要について（表4）」</p> <p>45行</p> <p>（下から2行）</p>	<p>そこで<u>本</u>、</p>	<p>そこで、</p>
6	<p>Ⅲ 質の向上度の判断</p> <p>③事例3</p> <p>研究6-9 20行</p> <p>（③事例3の下から3行）</p>	<p><u>注目を</u>注目されている。</p>	<p>注目されている。</p>

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 研究8-3 図表1 (附属センター)	光・量子理工学教育研究センター	光・電子理工学教育研究センター
2	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 研究8-3 図表1 (附属センター)	桂インテック <u>ス</u> センター	桂インテックセンター
3	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 研究8-3 図表1 (関連組織)	ナノメディシン融合 <u>研究</u> ユニット	ナノメディシン融合 <u>教育</u> ユニット
4	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 研究8-3 図表2（標題）	桂インテック <u>ス</u> センター	桂インテックセンター

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I エネルギー科学研究科の研究 目的と特徴 研究 11-3 13行	より広く _、	より広く _、
2	I エネルギー科学研究科の研究 目的と特徴 研究 11-3 18行	さらに _、	さらに _、
3	I エネルギー科学研究科の研究 目的と特徴 研究 11-3 19行	目指し _、 ・・・・・・受容性 _、	目指し _、 ・・・・・・受容性 _、
4	I エネルギー科学研究科の研究 目的と特徴 研究 11-3 20行	推進する _、	推進する _、

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I アジア・アフリカ地域研究研究科の研究目的と特徴 研究 12-2 39行	<u>分離</u> 融合型	<u>文理</u> 融合型
2	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目I 研究活動の状況 研究 12-3 12～13行	平成19年度3月	平成19年3月
3	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目II 研究成果の状況 研究 12-4 15行	平成19年度3月	平成19年3月
4	III 質の向上度の判断 研究 12-5 12行	<u>付</u> 属図書館	<u>附</u> 属図書館

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 地球環境学堂 の研究目的と特徴 研究 15-2 18 行 (3 段落 3 行)	変革の理念 <u>お</u> よびその方向を	変革の理念 <u>及</u> びその方向を
2	I 地球環境学堂 の研究目的と特徴 研究 15-2 39 行 (下から 8 行)	政策提言を行 <u>な</u> うことが、	政策提言を行 <u>う</u> ことが、
3	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 研究 活動の状況 研究 15-3 10 行	(丸善、 <u>2004</u> 年)	(丸善、 <u>平成 16</u> 年)
4	II 分析項目ごと の水準の判断 分析項目 I 研究 活動の状況 研究 15-3 11 行	進展の速度は <u>速</u> くはない	進展の速度は <u>著</u> しくはない

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 18-4 表 3. 1 段目の「場所」	<u>Torino</u>	<u>Turin (Torino)</u>
2	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 18-4 表 3. 4 段目の「講演題目」	Observation of <u>e</u> lectronic <u>s</u> tructure of <u>f</u> rontier <u>s</u> tates in <u>o</u> rganic <u>s</u> emiconductor <u>t</u> hin <u>f</u> ilms	Observation of <u>E</u> lectronic <u>S</u> tructure of <u>F</u> rontier <u>S</u> tates in <u>O</u> rganic <u>S</u> emiconductor <u>T</u> hin <u>F</u> ilms
3	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 18-4 表 3. 6 段目の「講演題目」	KEGG BRITE for <u>l</u> inking <u>g</u> enomes to <u>b</u> iological <u>s</u> ystems	KEGG BRITE for <u>L</u> inking <u>G</u> enomes to <u>B</u> iological <u>S</u> ystems
4	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 18-4 表 3. 7 段目の「講演題目」	Energetic <u>i</u> on <u>g</u> eneration by Coulomb- <u>e</u> xplosion in <u>c</u> luster <u>g</u> as and a <u>l</u> ow- <u>d</u> ensity <u>p</u> lastic <u>f</u> oam with an <u>i</u> ntense <u>f</u> emtosecond <u>l</u> aser	Energetic <u>I</u> on <u>G</u> eneration by Coulomb- <u>E</u> xplosion in <u>C</u> luster <u>G</u> as and a <u>L</u> ow- <u>D</u> ensity <u>P</u> lastic <u>F</u> oam with an <u>I</u> ntense <u>F</u> emtosecond <u>L</u> aser

	頁数・行数等	誤	正
5	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 18-4 表 3. 8 段目の「講演題目」	New <u>p</u> rogress in the <u>c</u> hemistry of <u>m</u> ultiply <u>b</u> onded <u>c</u> ompounds of <u>h</u> eavier <u>m</u> ain <u>g</u> roup <u>e</u> lements	New <u>P</u> rogress in the <u>C</u> hemistry of <u>M</u> ultiply <u>B</u> onded <u>C</u> ompounds of <u>H</u> eavier <u>M</u> ain <u>G</u> roup <u>E</u> lements
6	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 II 研究成果の状況 研究 18-7 24～25 行 (観点に係る状況) 第 3 段落 3～4 行	各雑誌ごと	雑誌ごと
7	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 II 研究成果の状況 研究 18-7 表 5 表題	表 5	表 5.
8	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 II 研究成果の状況 研究 18-7 表 6 表題	表 6	表 6.
9	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 II 研究成果の状況 (2) 分析項目の水準及びその判断理由 研究 18-8 29 行 (判断理由) 最終行	判断を <u>検証</u> している。	判断の <u>根拠</u> の一つとなっている。

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	Ⅲ 質の向上度の判断 ①事例1 研究 21-7 7行 （「①事例1」の最終行）	第 2.1 章	<u>同報告書 資料編Ⅱ 第 2.1節</u>
2	Ⅲ 質の向上度の判断 ②事例2 研究 21-7 14行 （「②事例2」の3つ目の「・」の1行）	「生存基盤科学研究ユニット	「生存基盤科学研究ユニット」 （ ） 追加

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 26－7 表6 「項目」の「受託研究費」の「受託研究費受入金額合計」の2006年部分	<u>64,1481</u>	<u>61,481</u>

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	Ⅲ 質の向上度の 判断 研究 27-6 11行	㊸事例 8	㊸事例 8
2	Ⅲ 質の向上度の 判断 研究 27-6 18行	㊹事例 9	㊹事例 9
3	Ⅲ 質の向上度の 判断 研究 27-6 27行	㊺事例 10	㊺事例 10
4	Ⅲ 質の向上度の 判断 研究 27-6 35行	㊻事例 11	㊻事例 11

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 原子炉実験所の研究目的と特徴 研究 28-2 10行 (3段落 1行)	日本原子力研究機構	日本原子力研究開発機構
2	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目I 研究活動の状況 研究 28-3 13行 1) の5行	DNA 損傷起	DNA損傷起源

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 32-3 15 行	文部科学省 <u>研究費</u>	文部科学省 <u>科研費</u>
2	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 32-3 19～20 行	平成 18 年度は <u>10,9000</u> 千円、平成 19 年度は <u>11,9000</u> 千円	平成 18 年度は <u>10,900</u> 千円、平成 19 年度は <u>11,900</u> 千円
3	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 32-3 25 行	厚生労働省 <u>研究費補助金</u>	厚生労働 <u>科研費</u>
4	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 32-4 9 行	開催した <u>のが</u>	開催した <u>ことが</u>

学部・研究科等の現況調査表（研究） 正誤表

	頁数・行数等	誤	正
1	I 生態学研究センターの研究目的と特徴 研究 33-2 12行	<u>生物間相互作用</u>	<u>陸域生物相互作用</u>
2	I 生態学研究センターの研究目的と特徴 〔想定する関係者とその期待〕 研究 33-2 32行	<u>はいり</u>	<u>入り</u>
3	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 33-3 5行	<u>陸域相互作用</u>	<u>陸域生物相互作用</u>
4	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 33-3 19行	<u>研究者</u>	<u>研究者</u>
5	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 33-3 23行	<u>生物間相互作用</u>	<u>陸域生物相互作用</u>
6	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 研究 33-3 32行	安定同位解析	安定同位 <u>体</u> 解析

	頁数・行数等	誤	正
7	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 (2) 分析項目の水準及びその判断理由 研究 33-4 34行	<u>さらに同様に</u>	<u>さらに</u>
8	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 (2) 分析項目の水準及びその判断理由 研究 33-4 40行	<u>陸域相互作用</u>	<u>陸域生物相互作用</u>
9	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 I 研究活動の状況 (2) 分析項目の水準及びその判断理由 研究 33-5 1～2行	<u>おこなった</u>	<u>行った</u>
10	II 分析項目ごとの水準の判断 分析項目 II 研究成果の状況 研究 33-5 10行	<u>生物間相互作用</u>	<u>陸域生物相互作用</u>